



千八百七十八年九月
十四日刊行「シマツパンガゼット」新聞抄譯

歳入出豫算書
オノヲ論ス



4155



114
A1413



大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

峯源次郎譯

新聞抄譯

歳入出豫算書ノ事ヲ論ス

一千八百六十九年(明治二年)八月ニ於テ大日本天皇陛下ハ封建ノ制ヲ廢レ世襲ノ公伯ヨリ其全土(此全土ニ就テハ世襲ノ公伯等生殺与奪ノ君上タル全権ノ半ハ其手ニ在リレノリ)ヲ主宰スルノ権ヲ恢復レ國一君ノ政綱ヲ掌握レ玉ヘリ

此時ニ當リテ日本財政ノ方法制理ノ容易ナラサルヲハ此帝國ノ将来ノ安危ニ関スル一大事件ナリキ、蓋シ當時ノ財政ノ方法タルヤ以後該國ヲ困難ナラシムヘキ負債ヲ招クヲナクシテ日本政府ノ要スル所凡百ノ事件悉ク施行セサルヘカラサル所ノモノナレハナリ

大正十一年

日本皇帝新臨政治ノ始ノ未タ数年ヲ出テスレテ早ク已ニ國家ノ基本タル歳入ヲ検査確証シ随テ歳出ヲ整正シ濫出ナカラシメンコトヲ決定セラレシテ明了ナリ

一千八百六十九年(明治二年)八月ヨリ一千八百七十三年(明治六年)五月マデ大抵四ケ年ノ間ハ此歳入ノ事ニ付テ取リ調へ申ナリシト覺ヘタリ其故如何トナレハ此四ケ年間ハ何タル政府ノ豫算表モ公布セラレサリシ故ナリ

然レモ一千八百七十二年(明治五年)ノ年末ニ至リテ「ロンドン」マガチ「ロンドン」按スルニ「ロンドン」ニ於テ諸方ノ新聞紙ヲ蒐集シ此中ヨリ拔萃シテ再々世ニ刊行スル雑誌ノ類ノ名称ナルヘシヲ見ルニ一個ノ個條アリテ此重要ノ主意(按スルニ歳出入ノ事件)ヲ究問検査セリ

且ツ一千八百七十三年(明治六年)ニ於テ半公半私ノ報告ヲ以テ

歳出ニ比スレハ莫大ナル歳入ノ過額アルコトヲ報道セラレタリ

諛年ノ五月ニ於テ一個ノ建議書ヲ看タリ井上聞太氏即チ馨(大蔵大輔)及ヒ澁澤榮一氏(三等出仕)ノ調印スル所ナリ但シ此人々ハ大隈参議(按スルニ大隈参議ハ大久保参議ノ誤リナランカ)ノ不在ノ間相共ニ同一ノ大蔵書記官トナリテ勤仕スル人々ナリ

(日新新事誌ニ見エタリ)

右ノ書タル日本國財政ノ覺悟トシテ日本國ノ当令ノ開明進歩ニ関涉スル種々著明ノ點定テ記シ而シテ財政ノ情態ニ就テ一定不拔ノ確証ヲ徴セリ

右等ニ措紳ガ四千万「ドル」ナルノ歳入ナルニ五千万「ドル」ナル(日本)銀幣ハ四ナリ而シテ(本)銀一「ドル」ナルニ相当ナリ)ノ歳出ナレバ其歳入ノ歳出ニ不足スルコト一千万「ドル」ナリト云フコトヲ証明セリ然リ而シテ一億二

千万ドルラルノ國債ヲ計算セリ、
然リ而シテ右二摺紳が財政ノ状態ノ困難ナルト此國債ヲ償
還スヘク計算スル恢復整理ノ方法ヲ制定スル才能ノ敢テ当リ
難キトヲ記載シ然リ而シテ猶ホ且ツ人民ヘ課セシ重税ヲ輕減
マントヲ固ク論セラレタリ(其故如何トナレバ此人民ハ其貯蓄
稀少ナルヲ以テ僅カニ糊口スルニ過キザレバナリ)
然レモ右二摺紳が土木ノ費用及々諸者ノ費用ヲ大ニ減縮シ此
レニ由リテ以テ通用紙幣ヲ償還シ外國債ヲ償還マントテ懲慙
セラレタリ
右二摺紳建議スル所ノ覺悟(天皇陛下ノ之レヲ讀ンテ自カラ快
トマサル所ナリ)ノ意タルヤ若シ天皇陛下此建議ノ方籌ヲ嘉納
シ實地ニ施行セシメハ財政ノ改革シテ其壁壘ノ觀ヲ改ムルハ
蓋シ踵ヲ旋ラサスレテ大ニ觀ルヘキモノアラトナリ

且ツ二摺紳上申スル所ノ建議ニ於テ日本ノ今回ノ進歩ハ實ニ
非常ニ急劇ニシテ天理自然ニ非ラス強クテ人為ニテ作セシ
ナレハ外見ハ大ニ進歩セシカ如クナレモ内實ハ大ニ然ラサル
モノアリト云フト陳述セラレタリ、
且ツ該建議ノ末段ニ於テ述ヘラレタルハ今一千八百七十三年
(明治六年)ニ於テ大日本ノ財政ノ状態ノ眞實ノ勘定書ヲ公告シ
テ憚カル所ナク天皇陛下ノ逆鱗ニ觸レテ其身ノ安危ヲ顧ミサ
ルモノハ獨リ大日本國民ヲ顧慮スルノ哀誠ナレハ大日本國民
ノ幸福ヨリ外ナラサルナリトナリ(一千八百七十三年五月十三
日刊行「ジャッパン」ガゼット新聞ヲ見ルベシ)
井上馨氏ハ今ハ大日本帝國政府ノ工部省卿ニ任セラレタリ、而
シテ彼澤榮一氏ハ第一國立銀行ノ頭取トナレリ
一千八百七十三年(明治六年)五月十八日ニ於テ日本政府此摺紳

ノ建議書即ち覚書中ニ記載スル所ノ勘定辱ヲ不取調ナリトシ
テ之レヲ採用セサリシ而シテ次ノ六月ニ於テ第一回ノ官報ノ
豫算勘定書ヲ公告セリ
右豫算勘定書ニ於レハ歳入ハ四千八百七十三万六千八百八十三
「ドル」ラニシテ歳出ハ四千六百五十九万六千五百十八「ドル」ラ
ルナリ而シテ残額ハ二百十四万一千二百六十四「ドル」ラナリ
ト云フ

且ツ之レニ加フルニ井上澁澤二氏ノ制定セラレシ覚書ノ不取
調ノ意ヲ明解シ之レヲ採用セサルノ所以ヲ述ヘテ内外債共ニ
之レヲ総計スレハ只ツ三千七百二十二万四千七百零一「ドル」ラ
ルナリト云フ「ヲ」ヲ詳説セリ(一千八百七十三年即ち明治六年ノ
六月十三日「ジャッパン」ガゼット新聞ヲ見ルベシ)
此ノ勘定豫算書ハ当今ノ大蔵卿大隈重信氏ノ制定セラル、所

ナリ此人公固ヨリ論ヲ待タナル才能アリ経験アル人ニシテ自
家ノ報告書ニ井上澁澤二氏ノ覚書ヲ付セラレタリ、
而シテ大隈氏二氏ノ覚書ニ其意見ヲ下シテ此覚書ハ元来不取
調ノ上ニ計算精密ナラサル所ヨリシテ自然正当ノ計算ト相乖
戾シテ仰々シキ勘定トナレリト云ヘリ、

大隈氏々井上澁澤二氏ノ報告ヨリシテ日本財政ノ従来ノ状態
ニ就テ日本人並ニ外國人ノ危懼ヲ懐ケル疑心ヲ閑散安穩ナラ
シメマサルヘカラスト云フ「ヲ」ヲ顧慮シテ左ノ通り冀望ヲナサレ
タリ即チ

正容ニ計算シ而シテ正容ニ按查シ眞実精算ノ上ニ日本人並ニ
外國人ニマテ該勘定豫算書ヲ公告スヘシ但シ此レニ由リテ内
外人民ノ疑惑ヲ解キ輿論ノ沸騰スル莫クテ欲スルナリト云ヘリ
一千八百七十三年明治六年六月十三日刊行「ジャッパン」ガゼット

新聞ヲ見ルヘシ

一千八百七十四年(明治七年)ノ五月ニ於テ第二四ノ歳入出豫算書ヲ発行セリ而シテ此ノ全勘定悉ク同レリ一千八百七十四年ノ六月六日刊行ノ「ジャッパン・メール」中ニ於テ記載セリ然リ而シテ内國債ノ總計ハ三千六百八十八万四千八百七十二「ドル」トシテ記載セリ但シ一千八百七十三年(明治六年)ヨリ算計レ来ル所ノ残額二百十四万一千二百六十五「ドル」ヲ合計セル五百六十万八千四百五十一「ドル」ナル(一千八百七十四年)明治七年十二月三十一日ニ「テ」該年ノ残額トシテ公告セラレタルモノニハ關係セサルナリ(一千八百七十三年即チ明治六年六月十三日刊行「ジャッパン・ガゼット」新聞ヲ見ルヘシ)一千八百七十五年(明治八年)ニ於テ第三回ノ歳入出豫算書ハ正月ヨリ六月マデ六ヶ月間ノ期限ニ節縮セリ但シ七月ヨリ六月

マデノ見込ヲ立テ、會計年度ヲ為サ、ルヲ得サルノ事件アリレ故ニ右ノ如ク半ケ年ニ節縮セリ、

此故ニ右等ノ豫算書ヲ以テ余輩其如何ヲ論議スル能ハサルナリ然レモ「ジャッパン・メール」新聞紙ニ載スル所ノ適當ナル数多ノ詳解ノ中ニ就キ一個ノ詳解ノ確証ヲ以テ満足セシムルハアルヘカラサルナリ

此ノ「ジャッパン・メール」新聞紙ニ記載スル所ノ勘定ニ拠レハ一千八百七十五年(明治八年)六月三十日ニ於テ豫算マラレシ残額壹千九百六十万七千三百十五「ドル」ハ前年ノ残額ニ合計シテ三千八百零一万零百六十八「ドル」ナリト見エタリ然リ而シテ此残額ハ大藏卿ノ手ニ現ニ残存スル總額ナリ、「ジャッパン・メール」新聞紙ニ此残額ニ就テ左ノ通りノ論說ヲ記載セリ即チ

若シ後米陸續發行スル説明ヲ以テ右等ノ如キ豫算各ノ勘定面
ヲ大ニ変革セサルヲ得サルノ一莫キヲ考定スルヲ得バ右ノ如
キ巨大ノ成果ニ於テ日本政府共ニ大蔵卿ノ為ニ大ニ賀セサル
ヲ得サルハ万^ニ已ヲ得サルノ忻喜ナリ
此日本ノ如キ國ニシテ其半ケ年ノ勘定ニ於テ大槩ニモ四百萬
ポウンド、ステルリングノ残額ヲ生スヘキハ勿論全ク信ヲ置ク
ヘカラサルノ事件ナリ
顧フニ此ノ上半ケ年ノ間ニ該年度ノ多分ヲ收入シ而シテ次ノ
下半ケ年ノ間ニハ諸向仕拂ノ金額大ニ上半ケ年ノ仕拂金額ニ
超過スル無キヲ保センヤ而シテ此成果タル右記載スル所ノ巨
大ノ残額ヲ生シタルヘシ
然リト雖モ世界万国何レノ政府ニテモ其年々ノ勘定ニ於テハ
百万^{ポウント}ポウント^ニリングノ残額ヲ生スル一ハ蓋シ未タ曾テ之レアラ

ナリシト云フ一ハ余輩論スル、要セサルナリ
蓋シ其事タル政州共ニ米合衆國ノ歳入出ノ調各ニ記簿スル所
ノ巨額ノ額数タル現今ヨリ増シテ数倍ニ至ルニ非サレハ言ヒ
易カラサルノ一ナルベシ(按スルニ其事タル畢竟出来クベカラ
ザル一ヲ云フナルベシ)
右ニ掲ケシ残額ハ為メニスル所アリテノ詐欺ノ政略ニ出タル
一ナラント疑フハ笑フヘキノ一ニシテ牽強ノ説ナルヘシ
抑モ右ノ如キ一「ポウンド」ヲモ水ヲ保タヌ程ノ(按スルニ確實ナ
ラサルヲ謂フナリ)勘定各ハ現ニ解明ヲ添付マサルヘカラサル
ニ今ヤ余輩ノ目ニ其解明ノ觸ル^ル國家財政ノ勘定書ノ如キ左
様ノ重要ナル書類ノ此財政ノ盛衰ニ就キ切實ニシテ且ツ現地
ニ大ニ関係ノ影響ヲ受クル所ノ外國人ヲシテ明解ヲ得セシム
ル為ニ媒介トナルベキ解明ナシニハ公告セサルヘカラサルハ

世ノ好ムヘキカ或ハ世ノ好マサルカハ此財政ノ事件ニ付
テ当然ノ問題ニシテ固ヨリ怪ムニ足ラサル所ノモノナリ
然リト雖モ余輩目撃スル所ノ此書類ヨリ推シテ日本帝國ノ歳
入出ノ間ノ關係ニ就テ其如何ヲ確定スル能ハサルハ猶ホ其今
日ニ確定ニ能ハサルカ如何ハ明了ナリ
此豫算ノ勘定書ニ就テ深ク固執シテ論辨スルハ随分己ムヲ得
サルカ如何ヲ然リ其故如何トナレハ談豫算勘定書タル現今ノ
形状ニテ此依外國ニ至リ外國人ノ目撃スル所トナルハニ當リ
テ外國人ハ只今余輩ノ論ヲ来リニ通り同様ノ論ヲ以テ之レヲ
許批スルモノ沸騰スヘケレハナリ
「ミル」氏世界中ニ於テ出来ヘキ「ヲ」熟考シテ二トニテ合セテ四
ヲナス「ノ」代リニ二トニテ合セテ五ヲナス「ヲ」云ヘリ（按スル
ニ是レ實熟ヨリモ積數ノ多夥ナル勘定ヲ云フナラン）

此國ノ殘額タル右「ミル」氏ノ所論ノ如ク非常ニ巨額ニ至レルハ
實ニ驚愕ニ堪タリ而レテ日本ニ於テ驚愕スヘキ事件種々ナル
ニ仮令右ノ驚愕ハ今余輩ノ希望スル所ノ解明アレハ之レニ依
リテ取次ニ消失シ得ヘシトイヘモ一千八百七十五年（明治八年）
ニ於ケルカ如何當時ノ豫算勘定書ニ依リテ生シタル驚愕ニ如
クモノハ未ダ曾テアラサルナリ
右等ノ如キ注目評論ヲ為スノ事ハ今年ノ歳入出豫算ノ勘定書
ニ於テモ從來ノ如ク并ニ以後トテモ之レヲ怠タラサルヘシ
其故如何トナレハ陸續公起スル異常ノ事件アラサル様之レヲ
豫防シ且ツ一千八百七十六年（明治九年）正月四日ニ公布サレタ
ル一千八百七十六年（明治九年）マデノ一千八百七十五年（明治八
年）七月ノ會計年度ノ勘定書ニ注目スルハ實ニ余輩ノ義務ナレ
ハナリ

談

今年ノ歳入出豫算勘定辱ハ大ニ増額ヲ表示セリ

歳入額ハ六千八百五十八万八千二百六十六ドルナリ而シテ歳出額ハ六千八百四十九万八千五百零六ドルナリ然リ而シテ残額ハ唯々僅ニ八万九千七百六十ドルナルヲ見ル

然リ而シテ此差引勘定ハ前年ノ勘定ヨリ其残額ヲ算ミ来ラサルモノ、如シ但シ從來ノ勘定式ニ拠レハ其現在ノ年ノ残額ノ

其理由ヲ明解シ能ハサル所ナリ
其大藏卿ノ謂フ所ニ拠レハ今年歳入出豫算勘定辱ノ結果ニ於

テ掲載シテ準備金ト云フモノ即チ從來ヨリノ勘定ノ残額ニシテ唯其名称ノ相交換マシノミ、如クナレバ余輩ハ其明解ヲ得

ナルナリ

一千八百七十五年(明治八年)ニ於テ財政ノ状態如何ヲ觀察シ而シテ諫年ノ歳入出豫算ノ勘定辱ヲ再澗スレハ左ノ如シ

一千八百七十三年(明治六年)正月ヨリ一千八百七十五年(明治八年)六月マテ二年半ノ勘定ニテ三千七百五十四万七千二百二十一ドルナルノ残額ヲ生シタリ

但シ右ノ残額ハ準備金トシテ政府ノ蓄藏ニ貯藏セラル、ナリ或ハ府縣ニ備ヘ或ハ營業資本トセラル趣ヲ公布セラレタリ

茲ニ至ルマテ此レ等勘定ノ報告タル可ナリニ其当シ得タリ而シテ若シ其負債ノ総額ハ一千八百七十四年(明治七年)十二月三十一日ニ於テ如キ勘定ナレハ三千六百八十八万四千八百七十二ドルナルハ増額マナリ故ニ一千八百七十五年(明治八年)六月三十日ニ於テ政府ノ手ニ六十六万二千三百四十九ドル

ラレノ現金ノ残額ナカラサルヘカラサルナリ
然リト虽一十八百七十五年(明治八年)七月一日ニ在テ官ヨリ
公告セラレシ内外債ノ総額ハ一億四千二百二十八万九千五百
八十「ドル」ナリ即チ一億零五百四十万四千七百零八「ドル」
ルノ額ヲ増加セリ
顧フニ斯ノ如ク負債ノ急ニ増額スル所以ノモノハ必ラス日本
ニ在テハ此回初テ紙幣ニ就キ國家ノ責任アリ引受ケサルヲ得
サルヲ承諾セラレタルトニ根拠スルナルヘシ
然リ而シテ其通用紙幣ノ額ヲ算計スルニ九千四百八十万三千
八百十九「ドル」ノ額數ニ上レリ
此事情ハ現今ノ理財形状ノ完結ノ要畧ヲ考定スルニ當リテ忘
却スヘカラサルノ要件ト称スヘシ
其故如何ナレハ通用紙幣ヲ引受タル責任タル後令其額數ハ

政府其豫算ノ歳出トシテ計算セラレサリシモ政府ノ保証スル
ニ相違ナキカ如クナレハナリ
一十八百七十五年(明治八年)七月一日ニ在テ日本國ノ負債ノ廉
全ク検査精計シ而シテ一億四千二百二十八万九千五百八十「ド
ル」ノ総額ナリト統計シテミレハ左ノ考按ヲ卷ケリ
即チ此総額ニ就キ一部分ノ償還ヲナスカ或ハ又タ更ニ債ヲ募
ルオノヲアリテ理財官ノ信用(即チ負債)ノ為メ一ニノ変化アル
此後ノ會計年度ノ勘定書ニ現出セサルヘカラサルナリ
右論スル所ノ勘定書ニ變化ヲ生スルヤ或ハ變化ヲ生セサルヤ
ハ此後ニ將ニ論及スル所アラントス(以下次号)

一千八百七十八年九月十四日「シヤツパン」ガゼット新聞紙
抄譯

歳入出豫算書ノ事(昨日ノ續キ)

一千八百七十六年(明治九年)ノ歳入出豫算勘定書ニ表出スル所
ニ拠レハ該年ノ債額ノ總數左ノ如シ、

債額總數

十億四千八百九十二万四千七百二十四「ドル」ナリ而シテ債
額ハ右ノ如ク増加シタレモ準備金ハ減シテ二千八百三十四万
一千四百十六「ドル」トナレリ、

但シ豫算勘定ナレタル歳出額ノ此歳入額ト比較シテ過不及ナ
キハ前年ノ通り同様ナリ
然リ而シテ一千五百八十四万零九百四十九「ドル」ノ額面ハ

債額ノ増加ト準備金ノ減縮トニ出ツルノ金額(即チ増加シタル
債ト減縮シタル準備金ト二項ニテ一千五百八十四万零九百四
十九「ドル」ナルナリ)ナルガ其精算勘定ノ「」ヲ記載スルア
ルヲ見サルナリ、

此故ニ此金額ハ何レノ処ニ存在スルヤ何レノ事ニ仕出セシヤ
之レ其精算勘定ノ事ニ付テハ大ニ疑團ノ在ル所ニシテ而シテ
其疑團ヲ叩クニ正理ヲ以テスル所ナリ、

右ノ金額ハ歳入ノ部ニ見エス又々諛年以後ノ豫算勘定昏ニモ
記載スルアルヲ見サル所ナリ

右金額面ヲ明朗ニ記載セサル「」ハ政州ニ於テ衆人ノ注目ニ関
係スルヤ固ヨリ疑フヘカラサルナリ、

蓋シ政州ニ於テハ注目シテ日本人ノ今マ世界ノ他ノ國民同様
自カラ進出開明スヘキ見込ヲシテ協心同力電勉シテ營々スル

ニ付キ必ラス之レニ從テ生スル利害得失ノ如何ヲ觀察スル所
ナレハナリ

日本ノ負債ハ年々増加シテ今下條ニ豫算勘定昏ヲ引用スル額
面ノ如ク三億七千五百二十五万零三百五十六「ドル」ニマテ
至ルヲ見ル實ニ巨額ノ總計ナリト云フヘキナリ、

蓋シ右ノ如ク増加シテ巨額ニ至ルニ付キテハ必ラス其由縁ア
ルヘケレハ其由縁ヲ了解スル為メニ非常ノ注目ヲ惹ケリ、

六ヶ年(按スルニ明治二年ヨリ算スルナラン)實際ニ細査シ一千
八百七十五年(明治八年)七月第一日ニ至リテ内國債ノ總額タル
七億四千二百二十八万九千五百八十「ドル」ニ至タレリ然ル
ルハ二億三千二百九十六万零七百七十六「ドル」ノ額數タル
細密ニ吟味サレサルヘカラス又々其内訳ノ廉々精密ニ之レヲ
勘定セサルヘカラス、

蓋レ政府行政工ニ付テ施行スル諸般ノ事業タル(此事業ニ付テハ其歳入タル歳出ヲ平均シテ過不及ナカリシナリ然レモ負債ハ増加セリ其増加セシ負債ノ額數タル四十年ノ歳出總額ニ匹敵セル程ノ巨額ナリ)實ニ電勉施行ノ成果ナカリシハ疑ヲ容レサル所ナリ、
右ノ勘定ヲ論定スル所以ノ理ニ基キテ其支出遣拂ノ廉ヲ詳明シ而シテ増加セシ負債ノ内訳ケヲ為スハ固ヨリ難事ニ非サルナリ、
其内訳勘定タル左ノ如シ、

二億四千六百六十九万九千零七十五「ドル」ラ
右ハ一千八百七十八年(明治十一年)ニ於ケル有利差ニ無利ノ國債額ナリ但シ此内左ノ通り額數

三千三百零零四千八百四十九「ドル」ラ
右ハ一千八百七十五年(明治九年)七月ニ於テ内國債トナリシ分

残額

二億零八百六十九万四千二百二十六「ドル」ラ

右ヲ新ニ増額スルモノト定ム

壹億二千零九十二万零九「ドル」ラ

右ハ一千八百七十八年(明治十一年)七月ニ於ケル通用紙幣

ノ分ナリ但シ此内左ノ通りノ額數

九千四百八十万三千八百十九「ドル」ラ
右ハ一千八百七十五年(明治八年)七月ニ於テ發行セシ分

残額

二千六百十二万三千三百九十「ドル」ラ

右ヲ新ニ増額スルモノト定ム

増額總計

二億三千四百八十一万七千六百十六「ドル」ナリ

一千四百四十八万零九百十二「ドル」ラ

右ハ一千八百七十五年(明治八年)七月ニ於テ募リレ外國債

ノ多ナリ

一千二百六十二万四千零七十二「ドル」ラ

右ハ一千八百七十八年(明治十一年)七月ニ於ケル算計面ノ

分ナレハ

右等兩額數ノ内明治十一年ニ於テ減縮スル額數ハ左ノ

如シ

百八十五万六千八百四十「ドル」ナリ

然リ而シテ新ニ増スモノト減スルモノトヲ差引計算ス

レハ即チ左ノ如シ

二億三千二百九十六万零七百七十六「ドル」ナリ

右ハ三ヶ年ニ於テ増加セシ所ノ額面ナリ

右二億三千二百九十六万零七百七十六「ドル」ラノ額ニ上レル
増加ノ原因數多ナルヘケレ其裡ニ就テ尤ナルモノハ一億七
千四百二十一万九千九百十五「ドル」ラノ額ニ上レルト云フ華
士族金祿ノ資本金是ナリ

右一億七千四百二十一万九千九百十五「ドル」ラノ額數ナル華
士族金祿ヲ負債ト見做シ今之レヲ償却スレノ目的ニテ國債証
書ヲ發行セリ

但シ右國債証書ハ利子付キナルガ其利子ヲ總計スレハ一ヶ年

拂ヒ出ス所ノ金額ハ一千百五十七万六千二百零八「ドル」ナリ

此國債証書ノ發行ニ依リテ該國債ヲ償還處分スルノ日本國ニ利益トナル所以ハ蓋シ左ノ如クナルベシ

即チ此華ニ族ノ金祿ニ於ケル日本國ノ國債タル後來ノマニシテ置ケル年々一千七百五十万「ドル」ツ、額面ヲ拂フベキ

勘定ナリ
然リ而シテ此マ、幾年ヲ送クルモ根本ノ金ヲ拂ヒ尽クスノ目途ナシ、

然ルニ今此負債ヲ興シ國債証書ヲ發行スルニ依リテ右年々拂ヒ出スヘキ一千七百五十万「ドル」ノ額數ヲ消散スルナリ

且ツ之レニ加フルニ年々過剩スル所ノ歳入ノ幾分クヲ以テ右ハ金祿國債証書ヲ償却シ因テ以テ漸々負債ノ全額ヲ勘定償却

スルアルニキナリ、

前段三ケ年間に於ケル負債増額二億三千二百九十六万零七百七十六「ドル」ナル内ヨリ此華士族金祿金一億七千四百二十一万九千九百十五「ドル」ヲ引キ去レハ五千八百七十四万零八百六十一「ドル」ナルナリ

此減縮シタル負債高五千八百七十四万零八百六十一「ドル」ヲ以テ一千八百七十五年(明治八年)七月第一日ニ於テ政府ノ帑藏ニ於ケル準備金高三千七百五十四万七千二百二十一「ドル」ニ加算マサルヘカラズ

但シ右ニ彙合計スレハ九千六百二十八万八千零八十二「ドル」ナル但シ此額面ヨリ現今政府ノ帑藏ニアリテ準備金ナリト云ヘル金額六千三百二十七万零七百七十二「ドル」ヲ減去スレハ三千三百零一万七千三百七十七「ドル」ナルナリ

右残金三千三百零一万七千三百七十ドルラルノ額面ト其遣拂
勘定ノ説明ヲ闕如スル所モノナリ
西南反賊ヲ征スルニ政府用意セシ金額ニ付キ其多分ヲ費用セ
レトハ固ヨリ相違ナキトナルヘシ
然レモ又々其費用セシニ付テハ公平ノ断按ヲ以テ庄ノ如ク主
張スルヲ得ヘシ即チ
大日本帝國ノ現金遣拂ヒノ取扱振ヲ表明スル為ニ反賊ヲ征シ
一揆ヲ戡定スルホニ付テ費用セシ非常ノ入費ハ財務ノ勘定各
中ニ於テ嚴密ニ計算セラレサルヘクアラサルナリト
日本大蔵卿大隈氏カ其歳入出ノ簿トシテ右ノ豫算勘定各ヲ英
國下院ニ呈マラル、ナラハ英國下院ハ強ヒテ其疑團ノ件々ヲ
叩クノトアルヘシ
下院ノ有石タル人々等ハ好シテ右豫算勘定書中ニ付テ了悉セ

ントヲ好ムヘシ

右豫算勘定書中ニハ不幸ニシテ理財官ニマテ甚タ了悉スルニ
難カラサル容易ナル理由ヲ記載セラレナリシナリ
但シ各自ノ理由ハ第一初頭ノ説明文ニ於テ説明ヲ付シナカラ
獨リ右ノ一事ノミ遺却マラレタリ、
右ノ如ク余輩論示スルカ如キ困難不容易ノトナカ余輩所見ノ
此困難按スルニ勘定各ノ不分明ナルヲ云フナランノ由テ来ル
モノハ左ノ件ニ出ツルモノ、如シ
即チ日本ニ於テ外國ノ簿記法ヲ襲用セシニ依リテ右負債ノ非
常ナル巨額ニ上リシモノ、如ク然カリ此件ハ十分明朗ニ説明
ヲ要スル所ナリ

右簿記法襲用ニ付テハ其取扱タル實ニ嚴密ノ原理ニ依リ
テ履行スルハ容易ナラサル所ナリ此レニ依リテ簿記上ヨ

大蔵省

ノ額数ヲ誤マリシモノ乎

日々新聞記載スル所ニ於テハ(昨年二月中ノ刊行ニ係カル)西南
反賊ヲ征スル軍費タル四千九百六十万「ドル」ノ巨額ヲ遣ヒ
拂タル「ナリ」
右四千九百六十万「ドル」ノ額面ハ前段論及スル所ノ遣拂ノ
説明ヲ記載セザル額数ノ金(按スルニ即チ三千三百零一万七千
三百七十「ドル」ト云フモノナルヘシ)ヨリモ巨大ナリ
故ニ右金額ノ拂向ハ分明ナレハ獨リ其負債ヲ記載スル豫算助
定唇ノ部ニ異論アルハ遣ヒ拂ヒザノ何レノ處何レノ件ト云フ
「ラ」明朗ニ記載セズ味々ニ付セラレシ「ナリ」
然リト雖モ日本政府ハ三億七千五百二十五万零三百五十六「ド
ル」ノ額ニエレル非常巨大ノ負債ヲ秘匿セズ明ラカニ公表
セラレシ「ナリ」

其勇邁ノ巨象余輩ノ親シク目撃スル所ロニシテ亦タ感ナリト
云フヘキナリ

但シ右三億七千五百二十五万零三百五十六「ドル」ノ額面ハ
当今ノ銀ノ相場ニテ大略七千二百万「ステル」リングニ當タリ即
チ一千八百七十六年(明治九年)ニ於ケル大英國ノ内國債三分ノ
一ニ居レリ

日本帝國ノ開明進歩ニ於ケル諸般ノ事件ヲ世界ニ輝ヤカカン
「ノ」目的ヲ以テ發行セラレタル官報ニ載マラレタル大要件ア
ル「ノ」左ノ如シ

是レ余輩ノ之レヲ一讀シテ國債如何ニ批評ヲ下サ「ル」ヲ得ヤ
ルニ至タル所ナリ

西洋人ノ論スル所ノ説タル日本ノ通用紙幣上ニ付テハ實ニ垂
字マリ其故如何トナレハ日本紙幣ノ發行タル其額数モ定限「テ

クシテ無数ニ製造スルアレハナリ
且ツ無数ニ紙幣ヲ發行スルニ相当ノ抵当金ナケレバ日本人民
大ニ此紙幣ニ信用ヲ置ク所以ニ外國人ノ所見ニ於テハ大ニ之
レヲ怪シメリ
猶又夕日本公債ノ重積フルハ是レ日本人民ヲシテ之レク為メ
ニ顧慮懸念セシムル所以ノ原因ナリ
而シテ此公債ノ一件ニ付テハ余輩ノ論的早ク已ニ注意ヲ以テ
是レク原因ヲ搜求セリ但シ其原因タル五ヶ年間ニ於テ増額セ
レトナリ
即チ五ヶ年間按スルニ明治六年ヨリ十年迄ヲ算スニ三千一百
万圓ヨリエリテ三億七千五百万圓ニ至レル内國債ノ増額セシ
トノ所以ナリ
此注意ヲ為ストニ就テハ一千八百七十三年(明治六年)ヨリ一千

八百七十八年(明治十一年)マデノ種々ノ事跡ニ溯ツテ一々其事
件ヲ追及シ以テ從事セリ
但シ其事跡ハ蓋シ負債ノ已ムヲ得ス増額スルモノ日本國ノ為
ニ直接ニ支給ノ用ヲナシ且ツ一部分ハ政府ノ管理ニ能ハサル
事件及ヒ政府ノ力ニ堪ヘ能サル事件ニマデ歸セサルヲ得サル
トヲ明示スルノ目的ヨリシテ大藏卿ノ發行セラレタル種々ノ
豫^定勘定^等尽ニ依ルナリ
抑モ此事情ニ依リテ企テタル説明文ハ必ス潤色^等紆餘ノ状ナリ
自然ト達意文ニ至ルモノナリ
但シ今此文ハ起首ヨリ其論旨ヲ了巻セシトテ好ム人ノ為ニ明
解トナスニ足ルノ目的ヲ以テ記載サレシモノナリ
若シ茲ニ此外國新聞紙上ニ於テ疑團^等但シ説明ヲナセハ此疑團
ハ亦解スル所ナリノ慮アルアラハ又タ議論ノ行文ニ於テ日本

政府ノ官報ノ主義ニ付テ之レヲ斥棄スルカ如キトアラハ是レ
皆固ヨリ正論ニ非サルナリ
即チ是レ日本政府ニ對シ偏執ノ所為ニ出テサルヲ得サルノ証
徴ナルナキヲ保マサル所ニシテ政人ノ心志タル解明ヲ付セサ
ル所ノ勘定書ハ不分明不適當ニシテ一般ニ之レヲ擯斥セント
スルナルヘシト云フ考按ヲ生スル人ナキヲ得ンヤ
一個ノ勘定書ニ於テ歳入ノ差即チ残額ヲ報告シ而シテ而後ノ
勘定書ニ於テ此残額ヲ記載マス即チ名目ヲ轉換シテ記載マル
ノ事ハ大ニ世ノ疑惑ヲ惹ク所トナルナリ
然リ而シテ此一部分ノ不分明ノ廉ヨリシテ錯誤ナキ所ノ報告
ノ正突ナルモノ、上ニ大ナル疑惑ヲ生シ之レカ為ニ官報ノ全
部悉ク信ヲ置クニ足ラスト云フ程ニ至ルナリ、
蓋シ現今ノ豫算勘定書タル一考ニ於テハ國債ヲ募集シテ増額

トナリタル國債ヨリ生セシ所ノ額數ヲ明示セス
又タ他ノ一方ニ於テハ西南ノ諸州ニ於ケル昨年ノ慘毒ヲ極メ
タル反賊ヲ征スル為ニ費用スル所ノ國費ノ非常ナル額數ヲ惹
督共之レヲ記載セザリシナリ
右ノ不都合ナル廉ニ依リテ觀レハ該年ノ豫算勘定書全部ハ信
ヲ置クニ足ラスト云フニ餘リアルノ事件ナリ
抑モ豫算勘定書ノ事タル將來ニ關係シテ既往ニ關係セスト云
フカ如キハ固ヨリ取ルニ足ラサルノ論ナリ
此レニ由テ之レヲ觀レハ預シメ意中ノ想像ニ依リテ豫算勘
定書ヲ記載スルニ昨年ノ歳入出ヲ相ヒ互ヒニ過不及ナキカ如
ク孜孜鞠躬シテ事實ニ於テ錯誤ナシトイハレシモノ亦タ右同
様取ルニ足ラサルノ所為ナルカ如シ
昨年西南反賊征討ノ軍費ハ大略歳入全額ト相頡頏セリ而シテ

今之レヲ記載セサルモノハ何ソヤ但シ其軍費ヲ用意セラレ
シ方法ハ深ク穩^穩慮^慮シテ人ノ尋向ヲ拒絶センノ目的ヨリシテ右
ノ如ク穩^穩慮^慮セラレシトナルヘケレト之レ全ク無用ノ事ナリ
蓋シ現實實際ノ結果ヲ挙ケテ以前ノ諸豫美勘定書ヲ徵証シ之
レニ由リテ現今製定セラレシ豫美勘定書ニ大信用ヲ置クニ至
タルニ非ラサル^白ヨリハ豫美勘定書ハ固ヨリ貴重スルニ足ラサ
ルトハ此オ議論ノ主張スル所以ノモノナリ即チ
或ル一ノ取り極メタル期限中ノ政府ノ事業ニ於テ必ラス有餘
ノ残額ヲ生セシトアルヘシ又タハ其結果タル不足ヲ来セシト
アルヘシ是レ皆テ掲載セサルヘケラサルナリ且ツ又タ勘定タ
ル有餘ヲ生セシトニ付キ不足ヲ来セシ事ニ付キ共ニ其事由ヲ
掲ケサルガ如キ勘定書ハ全ク之レヲ勘定書ナリト云ハサルナ
リ(按スルニ勘定ノ内訳ヲ明示セス然然ト察言スルハ笑ト云フ

ニ足ラサルナリト云フ意ナラシ)慘毒ヲ極メシ反賊ヲ征討スル
費用モ云ハ、人民ノ政府ヲ擁護スルカノ幾分カニ出ツルトナ
レハ政府タルモノ其征討ノ費額ヲ一々精密ニ取り調へ支出ノ
向ヲ人民ニ告知セシメサルヘカラス
何レノ処ニテモ金銭支出ノ向其事ヲ調へ不行届ノトアリ且ツ
精密ヲ得サル所ニハ明示ナキヲ以テ右等ノ如キ貴顯輩ノ安置
上ニ疑惑ヲ生シ随テ日本帝國ノ面目ヲ欠キ自然其信用ヲ天下
ニ欠クナキヲ保セサルナリ
右等ノ如キ種々悉皆ノ事情ノ上ニマデ外國人ハ非常ノ權衡ヲ
置キ大ニ注意シテ察スル所アラントス即チ左ノ如シ
若レ一千八百七十三年(明治六年)六月ニ於テ大隈重信氏(當時是
ニ當テ大藏卿ノ職ヲ奉セラル、ナリ)按スルニ明治六年ハ大久
保氏大藏卿タリ但シ大隈氏ハ當時大藏省事務總裁タリカ日本

國ノ信用ヲシテ計算上ニ付キ其失誤ノ廉アルニ於テ外國人ノ
為メニ蔑視セラル、莫クカラシメント欲セハ日本國ノ眞實ノ
大藏財政ノ状態ヲ明告シテ掩隠スルナカレヘキハ今日ト虫氏
日本國ノ幸福関スル所ナリ且ツ加之ナラス大藏財政ノ困難ニ
付キ大ニ論發憤争セシ人々等ニマデ任用ヲ得ヘキアリ、

